

「ずっと住みたい！ふるさと発展基盤づくり」プラン

少子高齢化が進む中で、地域の持続的な発展を実現するためには、子どもから高齢者まで誰もが安心して快適に暮らせる地域社会を築くことが重要です。そのためには、行財政改革が進む中で、多様な連携により効率性を高めながら、地域の安心安全や発展を支える基盤整備を進めていく必要があります。

このプランは、「多様な連携による若者と高齢者が共存できる地域づくり」をテーマに、南丹地域における公共事業のあり方等を提案、実行していくものです。

1 南丹地域の現状と課題

● 広大な面積に多様な地域が混在

南丹地域は、京都府全体の面積の約25%を占める広大な地域です。南部は京阪神への通勤・通学者が多く、北部は近隣市町との交流が盛んな地域です。また、その広大な面積の中に、京阪神から多くの人を訪れる行楽地が点在するとともに、大都市近郊として都市化が進展している地域や「日本一の田舎」を目指している地域があります。さらにその中間に位置する地域もそれぞれに異なった個性を持つなど、多様な地域が混在しています。

● 高齢化が進展している地域

都市近郊以外では高齢化が進んでいます。2005（平成17）年の国勢調査によると、南丹地域の高齢化率は全国平均（約20%）を上回っています。また、高齢化率が30%を超える地域もあります。今後も高齢化が一層進展することが予測されており、高齢者が安心して暮らせる地域づくりが大切になっています。

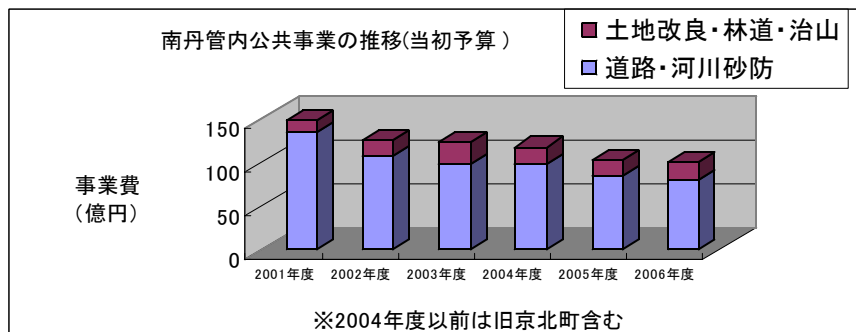
また、都市近郊では、まだ高齢化率が高い状況にはありませんが、今後、若者の流出を抑えるためにも、若者が魅力を感じるまちづくりが大切になっています。

● 効率化が求められる公共事業

京都府の財政状況は厳しい状況が続いており、国の公共事業費も毎年削減されています。南丹管内における公共事業費も年々低下しており、厳しい現実に直面しています。

一方、南丹地域の道路の整備率は国道、府道の総計で約6割、土砂災害危険個所の整備率も低い状況にあるなど、まだまだ整備を必要とする基盤が残っています。

このような状況の中、多様な機関の連携を強めることなどによって、無駄のない効率的な基盤整備を進めることが一層重要になっています。



2 プランの目標

目標1：多様な連携による地域づくり

① 道の連携による地域づくり

- ◇ 縦割り行政を廃し、農林と土木、国や市町、鉄道との連携を強めることによって、効率的、効果的に京阪神とのアクセス道路や市町までの交流道路の整備を進めることが大切です。
- また、J R山陰本線の京都駅から園部駅間の複線化事業と連携した道路整備や公共交通の利用促進の取組を進めるとともに、建設が進められている京都縦貫自動車道丹波綾部道路と連携した整備も必要です。

- ・京都市などの大都市圏と南丹地域とを結ぶ京都縦貫自動車道、国道9号及びJ R山陰線へのアクセス道路や、府県間・地域間を結ぶ道路の整備
- ・道路整備の選択と集中を図り、整備中の国道・府道整備を集中的に進めるとともに、国道・府道整備が遅れている地域では当面の間、市町道・農道を補完道路に位置付ける。
- ・踏切の改善やJ Rと立体交差する高架橋の整備促進などJ R山陰本線の複線化と連携した道路の整備。
- ・地域の実情に合わせた生活道路の整備 などを進めます。

② 水の連携による地域づくり

- ◇ 治水対策には河川整備が大変重要であり、また、洪水調整機能を持つ山が健全に維持保全されていることも大切です。このため、1つの流域について、治山（農林部門）と治水（土木部門）が連携して、整備を進めていくことが大切です。

- ・流域内水系一貫の土砂対策、治水対策
- ・間伐材を使った施設整備や京都府産木材認証材（ウッドマイレージ認証材）のハイブリッド合板（府内産スギ間伐材と外材を混合した合板）型枠の積極的利用など、農林と土木協働による間伐材の利用促進を通じた森林保全 などを進めます。

目標2：南丹らしい地域景観の保全と創造

① 地域景観を結ぶネットワークの創造

- ◇ 美しい自然や史跡、集客施設など、点在する地域資源を結ぶネットワークを整備することによって、地域のみなさんや地域を訪れる人々に一層魅力のある地域づくりを進めることが大切です。

- ・駅、観光拠点、祭の拠点、史跡、景勝地、自然・都市公園、社寺など、点在する地域資源をネットワーク化し、南丹らしい魅力ある地域づくり
- ・地域資源を結ぶ散策路、河川堤防、道路等の整備（例：トロッコ駅と遊船乗り場を結ぶ河川堤防を活用した散策路の整備）
- ・ダムを活用した地域振興の核づくり などを進めます。

② 自然環境と自然景観の保全と活用

- ◇ 由良川源流域には西日本を代表する芦生原生林があり、また桂川源流域には古くから守られてきた森があります。これらの豊かな自然を保全し、未来に残していくことが大切です。

- ・南丹地域の自然豊かな地域を新たに自然公園として整備し、散策等に利用できるよう検討
- ・自然公園に近接した林道の利活用を検討
- ・河川等の水質保全による自然と生活環境の保全 などを進めます。

③ 地域景観の保全と創造

◇ まちの景観を形成している古い建物等をできる限り保全するよう誘導するとともに、公共施設整備も地域景観に配慮して進めることが大切です。

- ・魅力ある地域づくりを進めるための住民主体の景観づくりの促進
 - ・景観に配慮した道路等公共施設の整備
- などを進めます。

目標3：人に優しい地域づくり

① 人に優しい建物・道づくり

◇ 高齢化が急速に進む南丹地域では、高齢者はもとより障害のある人達のためにも、人に優しい地域づくりが大変重要です。「京都府福祉のまちづくり条例」により、公共的な新規建築物のバリアフリー化を推進していますが、さらに既存施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの採用など、人に優しい建物や道路の整備を進めていくことが大切です。

- ・バス停・歩道の段差解消等による公共施設のバリアフリー化や安心・安全な道づくりなど、総合的なユニバーサルデザインのまちづくり
- ・建築・福祉部門が連携した情報提供等による既存住宅のバリアフリー化の促進
- ・中心市街地での安全で快適な生活道路づくり

などを進めます。

② 医療・福祉施設へのアクセスの安定確保

◇ 高齢化が急速に進む南丹地域では、高齢者はもとより障害のある人達のためにも、医療・福祉施設へのアクセスの安定確保が大切です。

- ・救急病院や高度専門医療施設、社会福祉施設などへの交通時間を短縮するための道路の整備
- などを進めます。

3 体系図

1 多様な連携による地域づくり

① 道の連携による地域づくり

- 大都市圏と南丹地域とを結ぶ京都縦貫道等へのアクセス道路や府県間・地域間を結ぶ幹線道路の整備
- 選択と集中を図るための国道・府道と農道や林道・市町道との連携
- J R山陰本線の複線化と連携した道路整備
- 地域の実情に合わせた生活道路の整備
- 災害に強く相互に代替的機能をもつ道路網の整備
- 地域づくりを支援する道路の整備

② 水の連携による地域づくり

- 流域内水系一貫の土砂対策、治水対策
- 健全な森林を保全するための間伐材の利用促進
- 治山と砂防の連携による効果的な山の荒廃対策
- 農業基盤整備と河川整備の連携など

2 南丹らしい地域景観の保全と創造

① 地域景観を結ぶネットワークの創造

- 駅、観光拠点、祭の拠点、史跡、景勝地、自然・都市公園、社寺など、点在する地域資源をネットワーク化し、南丹らしい魅力ある地域づくり
- 地域資源を結ぶ散策路、河川堤防、道路等の整備
- ダムを活用した地域振興の核づくり

② 自然環境と自然景観の保全と活用

- 自然公園に近接した林道の利活用を検討
- 自然環境に配慮した施設整備
- 水質保全による自然・生活環境の保全

③ 地域景観の保全と創造

- 魅力ある地域づくりを進めるための住民主体の景観づくり
- 景観に配慮した道路等公共施設の整備
- 景観に配慮した地域づくり

3 人に優しい地域づくり

① 人に優しい建物・道づくり

- 公共施設や既存住宅のバリアフリー化など、総合的なユニバーサルデザインのまちづくり
- 安心・安全な道づくり
- 中心市街地での安全で快適な生活道路づくり

② 医療・福祉施設へのアクセスの安定確保

- 救急病院、高度専門医療施設、社会福祉施設等への交通時間を短縮するための道路の整備

横 軸

- 府民参画
 - ・道路、河川等の整備及び管理について、府民参画の推進、府民意見の反映
- 合併した市町の支援
 - ・合併した市町を支援するための幹線道路、治山治水等の基盤整備の促進